名印部類

國風画

序

名印部類成予聞之喜不自禁曰是為不朽之業求畫者由是決其可否鑑畫者亦由是定其眞贋其功可謂遠且大矣或曰未見其書而稱其功無乃太早計乎余曰雖未見其書亦能知著者之為人矣川﨑千虎君博聞多識善畫又精掌故松尾四郎君强記精勤好畫又有鑑識而今苦心研精共著此書其正確可知也蓋古來款識之書固鮮矣僅有萬宝全書鑑定便覧等而杜撰鹵莽不足信可為繪事歎也況近世著作家近利是見不以不朽自期剽竊踏襲以成名者滔々皆是故一人紀虛萬人傳謬是可

大憂也今二君則不然博引旁證務期確實特如土佐住吉両家就其家所傳印章自摸寫焉其他諸家亦多就真蹟親摸之云故是書一出杜撰者始正鹵莽者始確則求画者及鑑画者之幸果如何哉是余所以喜不自禁也遂書以為序

壬辰八月　一枝巣主人　兒島獻吉撰并書

凡例

一本邦往古ノ畫ニシテ後世ニ名印ヲ傳フルモノ甚ダ稀ナリ萬寶全書等ニ百濟河成。巨勢金岡。春日基光等ノ印ヲ數多載セタレ𪜈信ヲ措クニ足ラザレバ今之ヲ省キテ其正確ナルモノヽミヲ聚集セリ

一巨勢系圖ハ群書類聚。隆信々實系圖ハ諸家大系圖。土佐系圖ハ同家傳來ノ物ニ聊カ補修ヲ加ヘ且ツ疑ヒアル毎ニ私案ヲ附スト雖𪜈尚ホ仔細ニ査覈スル時ハ土佐家ノ光信以前ニ於ケル其系統殆ント皆信用スルニ足ラザラントス今暫ク舊記ノ儘ヲ録シテ博雅君子ノ訂正ヲ待ツ

一住吉。板谷。粟田口等ノ系圖ハ倭錦。古畫備考。扶桑名畫傳ニ據リ尚ホ住吉廣一氏ニ就テ補正セリ

一原。勝山ノ系圖ハ古畫備考。書畫時代一覽等ニ據リ之ヲ作リ尚ホ原在泉氏ニ就テ補正ス

一欵字ハ各真蹟ニ就テ謄寫スト雖ドモ急ニ得ガタキモノハ止ヲ得ズ粉本ニ由リテ複寫ス但シ其複寫シタルモノハ十カ一ニニ過ギズ

一印影ハ其家々ニ傳來スル所ノ印章ヲ乞テ押捺シ足ラザルモノハ遺墨ノ正確ナルモノニ就テ謄寫セリ

一往古ノ畫人少ナカラズト雖ドモ名印ノ傳ハラザルモノハ止ヲ得ズ之ヲ省ケリ

一此編遽カニ剞劂ニ附シタルニヨリ遺漏亦少ナカラズ後日措據増補スベケレバ幸ニ系傳印書ノ類ヲ襲藏セラル、諸彥ハ貸與セラレテ編者ノ微意ヲ翼賛アランヿヲ希望ス

藤原信實朝臣書畫一筆

あゝゑはかなつゝ家のはかなくと
一生のりかたきに学ふら繪
の子とも我道のわざに於
まことのあはれ修彼技業不
ありて閑かなしかし中出
なかるへし














堅田満月
堂之圖
土佐光信筆
鞆音縮模



右に載たる所ハ近江國堅田の里滿月堂世に浮御堂といふ千鳥が濱辺の真景にして洛北紫野大徳寺の塔頭瑞峯院の襖の一斑なり曾て同院の開基大滿國師土佐光信を伴ひ同地に遊ひ其勝景を愛し直ちに光信をして襖に畫かしめたりといふ畫中に法衣を穿ち中啓を持たるは乃ち國師にして肩衣を着たるハ光信なり前図の繪師の草紙ならびにこの襖の繪ハともに信実光信が自筆の肖像ともいふべきものなればここに収めて本書の補翼となせん

○巨勢系圖

按ルニ金岡ハ建内宿禰ノ孫波多八代宿禰ノ子許勢臣ノ裔巨勢野足卿ノ後ナリト云ヘリ

- ○金岡　従五位下　隼人正　釆女正
  寛平頃
  仁和四年九月勅ヲ奉シテ御所ノ南庇東西ノ障子ニ弘仁以後ノ鴻儒ノ詩ヲ能スル者ヲ撰ミテ其像ヲ畫ク
  - 相見　又相覧　従八位下　讃岐少目　繪所
    昌泰頃
  - 公忠　従五位下　釆女正　繪所長者
    延長頃
  - 公望　又公茂或公持　従五位下　造酒正　繪所長者
    天暦頃
  - 深江　天禄頃
    - 廣高　又弘高或廣貴博孝　出家還俗　従五位下
      釆女正　長保頃　繪所長者
  - 是重　左近将監　繪所長者
    長元頃
    - 信茂　左衛門志　出羽権守
      繪所長者　治暦頃
  - 宗茂　能登権守　繪所長者
    - 益宗　出羽権守　保延頃
    - 女子　後白河院宮女安藝
      右京大夫師光室

兼茂

有宗
民部大輔 繪所長者
後白河院上北面 文治頃

宗久
修理亮 建保頃
土御門後鳥羽両院上北面

宗深
刑部丞 建仁頃

源慶
建保頃

隆慶
号丹後房

義隆
市冠者

忠長
雅楽介
後深草院上北面

有行
掃部介 弘安頃

有忠
修理亮 徳治頃

有俊
大炊助

有茂
雅楽助 従三位 隠岐守
後伏見院上北面

宗久
院蔵人 院上北面 従五位下
式部丞 飛騨守 文和頃

有久　従五位上　左近将監　釆女正　壹岐守　繪所長者　貞和頃

有岡　木工助

有義　左近将監

久高　式部大夫

行忠　釆女正　繪所　永和頃

有嚴　伊賀法印　大乗院家

快有　帥法橋　大乗院家

俊久　泉永門院藏人

永有　藏人　建長頃　大乗院家

有尊　參河法橋　大乗院家

堯尊　安藝法橋　一乗院家

堯有　筑前法眼　大乗院家

有譽　式部法橋　大乗院家

行有　信濃法眼　大乗院家

圓有　伊豫法橋

豪有　但馬公

尊有
越前法橋　法眼
大乘院家

源有
三河法印
大乘院家

堯有
信濃公

堯嚴
民部法眼　一乘院家

重有
筑前法眼
大乘院家

長有
筑前法橋

有尊
圓勝寺労分

正有
林賢房

○隆信信實系圖

大職冠鎌足公六世閑院左大臣冬嗣公一男中納言長良卿六世皇后宮少進藤原爲隆男

隆信
正四位下　藏人　右馬権頭　右京大夫　越前守　若狹守
上野介　法名戒心
元久元年二月廿二日卒年六十四

隆範
正四位下　越前守　左京大夫

信兼
従五位下

家信

隆兼　藏人　宮内大輔

信實　初隆實　正四位下　左京權大夫　中務大輔
法名寂西
文永二年十二月十六日卒年八十九

猷圓　三井寺長吏　法印

行譽

隆禪　僧都

女子　順德院兵部内侍　世ニ難波内侍ト云

女子　土御門院少将内侍　侍從公内侍

女子　承明門院右京大夫

爲繼　從三位　中務大輔　左京大夫
文永二年卒

信蔭 從五位上 能登守 信濃守

信義 從五位下 筑前守

信海 醍醐法印

守圓 阿闍梨

女子 四條院少將内侍 後深草院内侍トモ云

女子 藻壁門院少將内侍

女子 後深草院辨内侍

女子 新勅撰和歌集ノ撰者

伊信 正四位下 右馬頭 法名寂明 建治頃

守雅 從五位下

知繼 實信蔭男 少納言 正五位下

繼尊 權少僧都

行顯 法印

爲親 遁世 權律師

寂性

女子 安嘉門院大貳

爲信 初爲行 從三位 中務少輔 刑部卿 法名寂融 嘉元頃

禪信 僧都

弟子
信尹　従五位下

為理　初為業　従三位　右馬頭　少納言　中務大輔

深寛　早世

尊道

宗壽　實尊上人

仁空

女子　後二條後醍醐両院少将内侍
長楽門院民部卿

信勝　従五位下

為量　初為春　正四位下
中務大輔　右馬頭
少納言

為茂　従五位上　民部少輔
法印

豪信　山法師　法印

覚為

○土佐系図

利基　閑院左大臣冬嗣公六男
内舎人藤原良門男
従四位下　右近衛中将

兼輔　従三位　中納言

雅正 従五位下 刑部大輔

頼成 従四位下 因幡守

清綱 正五位下 左衛門佐

隆時 正四位下 因幡守

清隆 正二位 中納言

按ルニ清隆ノ子隆能ニシテ基光ハ別系ナリ

画工

基光 春日ト號ス 従五位上 内匠頭

寛弘頃

按ルニ基光ハ贈大政大臣房前公五男魚名十一世ノ孫ニシテ利基ノ流ニアラズ而シテ基光ノ子ニ僧珍海行海アリテ倶ニ畫ヲ能クセリ

光親 右兵衛尉 長久頃

隆能 正五位下 藏人 主殿頭 繪所預

寛治頃

隆親 従五位下 備前守 伊豫守 中務少輔

大治頃

按ルニ隆親ノ弟ニ僧行智アリテ畫ヲ能クセリ

經隆　従五位下　土佐守　中務大輔

建長年中紫宸殿賢聖障子ヲ畫ク

按ルニ建長年中ハ隆親ノ大治元年ヨリ百二十余年ノ後ナレハ隆親ノ子ト云ヿイカヽ又百鬼夜行ノ繪ノ奥書ニ正和五年六月従五位下經隆トアリ正和五年ハ建長年中ヨリ六十余年ノ後ナリ

隆兼　土佐ト號ス　従五位下　右近衛将監　繪所預

〻延慶頃

邦隆　従五位下　豊前守

光長　従五位下　刑部大輔

按ルニ光長ハ承安年中平野行幸等ヲ畫キタル人ナレハ經隆々兼ナトヨリハ遙カニ前ノ人ナリ

吉光　従四位下　刑部大輔

正和年中紫宸殿賢聖障子ヲ畫ク

光秀　飛騨守　元亨頃

光正　従五位上　越前守　嘉暦頃

光顯　従五位下　越前守
貞和頃

隆成　伊豫守

長隆　従五位下　左近衛将監　剃髪シテ法眼ニ叙ス　法名快閑

按ルニ長隆ハ永仁年中蒙古襲来ノ繪巻ヲ畫キシ人ナレバ光顯隆成ヨリハ前ノ人ナリ

隆相　従五位下　刑部大輔

相保　釆女佑　藤原ノ姓ヲ改ノテ源氏ト為リ海田ト號ス後再ヒ本姓ニ復ス

光國　従五位下　備後守　剃髪シテ法眼ニ叙ス　法名永春
粟田口ト號ス

按ルニ光國ト法眼永春トハ別人ナルベシ

行光　越前守　延文頃

光重　正五位下　越前守
明德頃

行廣　従五位上　左近衛将監　法名經光
應永頃

行秀　従四位上　修理亮　大藏少輔　繪所預

永享二年大嘗會悠記方御屏風ヲ畫ク

光弘 中務丞
永享二年大嘗會主基方御屛風ヲ畫ク

廣周
從五位上 彈正忠 法名經增
長祿頃

光信
從四位下 刑部大輔 繪所預
大永五年五月廿日卒年九十二

光茂
正五位下 刑部大輔

女子
千代光久ト號ス 天文頃
狩野元信ノ妻

光元
從五位下 左近衞將監
永祿二年正月十三日戰死年三十

光吉
從五位下 法名久翌
慶長十八年五月五日卒七十五

光則
右近 源左衞門尉
寛永十五年正月十六日卒年五十六

廣通
住吉ノ祖 系別ニアリ

光起　従五位下　左近衛将監　剃髪シテ法眼ニ叙ス　法名常昭
元禄三年八月八日仙洞御所ニ召サレ御前ニ於テ人物花鳥ヲ畫ク
同四年九月廿五日卒年七十五

光成　童名藤満　従五位下　左兵衛尉　左近衛将監　刑部権大輔
法名常山
寶永七年三月廿一日卒年六十五

光祐　童名藤満初名光高　正六位下　左兵衛尉　左近衛将監
寶永七年七月九日卒年三十六

光芳　童名藤満丸　正五位下　右近衛将監　左近衛将監　大蔵少輔
法名常覺
寶永四年春宮坊ノ御杉戸ニ童形舞樂ノ圖ヲ畫ク時ニ八歳
安永元年八月廿九日卒年七十三

光淳　童名藤満丸　従五位下　左近衛将監　内蔵少属　内蔵大允
寛延元年大嘗會悠紀主基御屏風ヲ畫ク
明和元年十二月六日卒年三十一

光貞　童名茂松丸　正五位下　内匠大属　内匠大允　左近衛将監
土佐守

寶暦四年正月累代丹青之功勞ニ依テ繪所預ヲ分チテ兩家ト爲ス
明和元年同八年天明七年等大嘗會悠紀主基御屏風ヲ畫ク
寛政元年新内裡ニ清涼殿唐画倭画及ヒ昆明池荒海等ノ御障子錢形ノ
御屏風ヲ畫ク
文化三年二月四日卒年六十九

光孚

童名虎若丸　從四位上　備後介　土佐守　贈正四位下
寛政元年新内裡ニ清涼殿名所御屏風ヲ畫ク時ニ十歳
嘉永五年三月廿七日卒年七十三

光清

童名繁松　從四位下　豊前介　伊勢守　土佐守
文久二年十一月廿一日卒年五十八

其

大和國元龍田社々司

光文

嗣本家

光武

現存

光時

童名長松丸　從四位下　左近衛將監　伯耆守
天明七年大嘗會悠紀主基御屏風ヲ畫ク

寛政元年新内裡ニ清涼殿名所御障子及ヒ殿上馬形ノ御障子錢形ノ御屛風等ヲ畫ク
文政二年八月十七日卒年五十六

光祿　童名藤満丸　正五位下　上野介　左近衛將監　參河守

光文　實光孚男　童名延丸　從四位下　肥後介　左近衛將監　備前守
明治十二年十一月九日卒年六十八

光章　童名直丸　從六位下　伊豫介
明治八年七月四日卒年二十八

光一　現存

○住吉系圖

土佐光吉次男
品廣通　童名長重丸　初忠俊　通稱内記　剃髮シテ法眼ニ叙ス
法名如慶
後水尾天皇曾テ住吉法眼慶恩ノ後ナキヲ惜マセタマヒ住吉繪所ヲ再興シタマウ時ニ土佐廣通名畫ノ聞エアルヲ以テ寛文二年後西院天皇廣通ニ

住吉繪所タルベキ吉ノ勅命アリ同社々務津守國治舊例ニヨリ家跡トナスベシトノ許状ヲ授與ス仍テ原姓土佐氏ヲ改メテ住吉氏ト称ス
寛文十年六月二日死年七十三

廣純　又廣澄　通称内記　剃髪シテ法眼ニ叙ス　法名具慶
天和三年八月旧幕府徳川家ノ畫工トナリ江戸ニ移住ス
寳永二年四月二日死年七十五

廣夏　初廣次　出家　法名鶴洲
讃岐國高松祥福寺天基寺ノ開基
享保十六年正月元日寂年八十二

廣保　初廣芬　童名吉松　通称酒之助　内記　内藏允　法名至石
寛延三年五月八日死年八十五

弘邃　通称忠藏
高木氏ヲ冒ス

廣守　通称總次郎　内記　法名至全　賀慶
安永六年十月廿二日死年七十三

廣行
文化八年八月六日死年五十七
實板谷廣當男　通称内記　景金園ト号ス

廣尚
文政十一年七月廿一日死年四十八
通称内記

弘貫
文久三年七月廿二日死年七十一
實廣尚弟　初廣定　又弘定　通称内記

廣賢
明治十六年五月三十日死年四十九
實遠藤廣實男　通称内記

廣一
現存

○板谷系圖

住吉廣守門人初住吉氏ヲ冒シ后本姓ニ復ス

廣當
寛政九年八月廿一日死年六十九
初廣慶　慶舟

廣行　住吉廣守養子

廣長　桂意
文化十一年四月十七日死年五十五

廣隆　桂舟
天保二年五月三十日死年四十六

廣壽　桂意
天保七年五月十二日死年二十一

洞益
狩野洞白養子

弘延　桂舟

廣春　桂意

○粟田口系圖

住吉廣守門人

直芳　始近藤五郎兵衛ト称ス　后慶羽
舊幕府徳川家奥坊主
寛政三年十月十六日死年六十九

直隆　慶羽　珪羽　慶受　雙齋　尺蠖齋
文化四年九月十四日歿年五十五

直興　珪羽
文政四年九月十一日歿年四十三

隆吉　實直興弟　桂節

隆重　珪輪　又桂林

某

○原系圖

原性圓男

○○在中　原氏　名致遠　字子重　臥遊ト号ス
洛東聖護院村ニ住ス
天保八年十一月廿八日歿年八十一　一本八十八

在正　名近義　字子信

在明　字子德　寫照ト号ス　若狹目　内匠大允兼大和介
京都中立賣室町東ヘ入町ニ住ス
弘化元年六月十五日歿年六十七

在親　字子民

在善　字子至

在照　内匠少允兼近江介　観瀾ト号ス
明治四年十二月二十一日死年五十九

在泉　現存

弟子
在孝　高倉氏　字子玉　復斎ト号ス
京都ヨリ名古屋ニ移住ス　安政頃

在靖

孝資

○勝山系圖

琢舟　始メ山嵜如流門人后土佐ニ改ム　名章輸
春日畫所

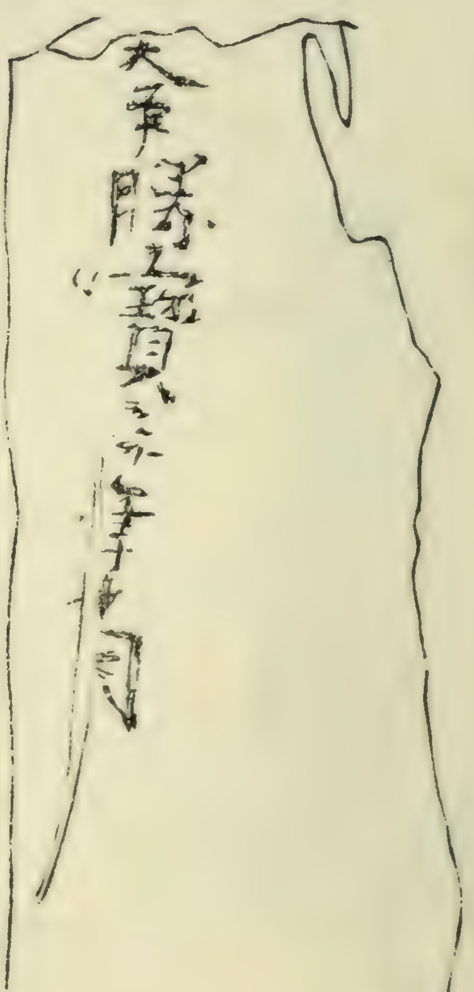
琢眼　安倍氏　名仲起　鶴嶺子ト号ス　法眼ニ叙ス
文化頃　京都烏丸切通ニ住ス

琢文　名仲行

弟子
琢磨　名行章　雪蕉齋ト号ス　法橋ニ叙ス

繪畫に名を署すことは本邦にて古よりの事な
るべしされどもむかしは事を記したる物まれなれば古今
著聞集巻十一畫圖の部に帥の卿が屏風を書
人ありけり公茂弘高などにて見せられけるに公茂弘
高をまねきていひけるはこの野筋蛙松海なんど
のしだい形容しては公忠が書ける否や弘高嘆伏しけ
れ公茂がいふ公忠が屏風をかくとて書はなはだその屏
風のかはりのすみがきにいれのほどが名をかきつけて
ありみな其形ちて見るにあんのごとく公忠が字なり
けりいまだしかりける事なりと云しるしあるべく

東大寺所傳鵬纈屏風ノ下邉傳粉剥落ノ間ニ天平勝寶云々ノ數字アリ画家ノ欵字ト云ニテハナケレドモ千有余年ノ舊物ニシテ猥リニ弃ルニ忍ビザレバコヽニ載セテ参照トナス



倭畫師池守

天平寶字四年三月廿日
越前人倭画師池守東稲
算計解文ノ印



小野擧時

天台座主明尊　道風ノ孫大内記兵庫頭擧時ノ子永承三年八月天台座主ニ任ス康平六年六月二十六日寂ス年九十三

木工頭小野朝臣道風之肖像、父大内記小野朝臣擧時

故以曾祖父道風朝臣之詠詞書之

所拜寫之也、故

千當院

當院

于時永承三年十一月十一日天台座主明尊（花押）

十一日

十一月十一日ハ道風朝臣ノ祥忌日ナリ

玄證阿闍梨

栂尾高山寺ノ僧ナリ往昔同寺ニ阿闍梨ガ筆ノ稿本アマタアリシガ今ハ世間ニ分散シテ好古家ノ愛玩トナレリ

治承三年己亥正月十八日撰之

一三川

源實朝公

右幕下頼朝公ノ二子幼名千幡正三位権中納言内大臣右大臣征夷大将軍建保七年正月廿七日薨ス年二十八

建保甲戌二月佛日

一筆三拜源實朝（花押）

藤原信實



畫師住吉住人介法橋慶恩

并子息聖衆丸

住吉慶恩

傳詳カナラズ或ハ住吉慶恩同人ナリトイヘリ建長頃

託摩榮賀

春日画師四法眼ノ一人



松溪

託摩ノ裔



土佐經隆

元和五年六月一日以内藏寮影本三日之間

寫之了従五位下藤原經隆

春日行長

倭錦ニ隆親三男左近衛将監兼元頃トアレドモ誤ナリ行長ハ荏柄天神縁起ノ筆者ニシテ同巻ノ奥書ニ于時寶暦元應屠緒之玄律大呂朔之朝云々トアリ

右近将監藤原行長

僧豪信

相當[illegible]第二七[illegible]之

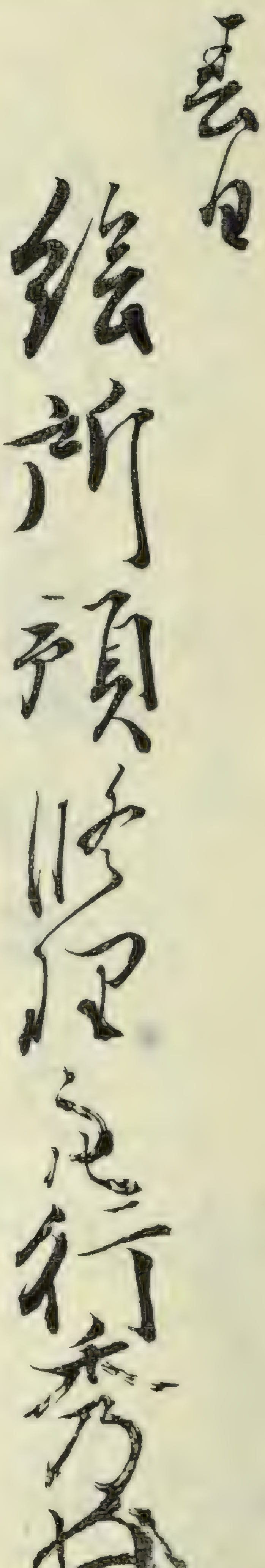
建武元年六月九日[illegible]

繪所伊久 貞和頃

繪所正五位下行加賀守

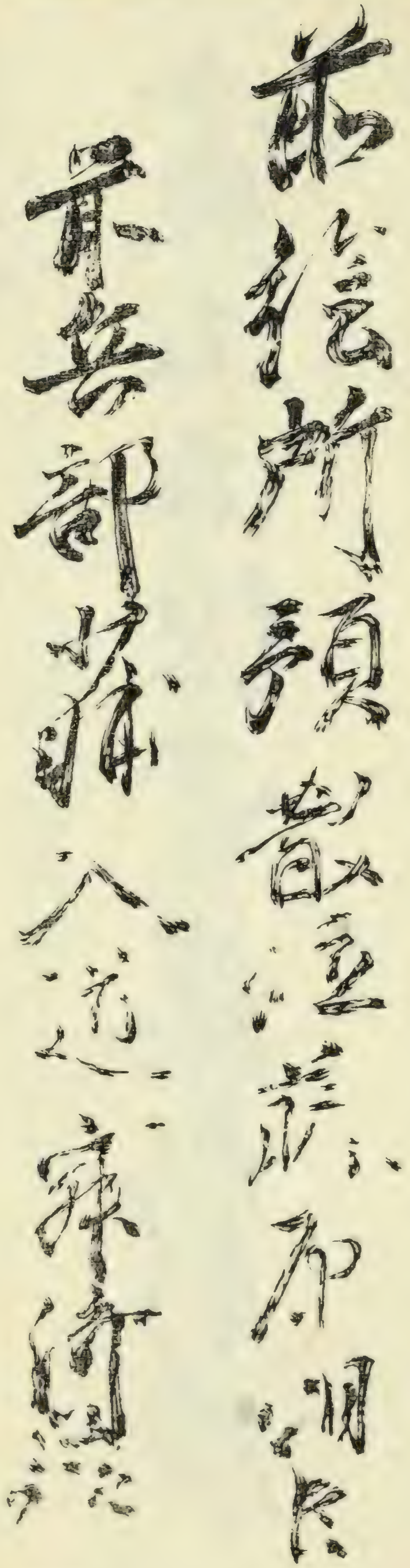
藤原伊久書之

春日行秀　應永頃



六角寂濟

倭錦ニ土佐光顯ニ子トアリ土佐系圖ニハ載セズ
應永三十一年二月二日寂ス



土佐行廣

畫工土佐守藤原行廣

倭錦ニハ光顕三男トアリ土佐系圖ニハ載セズ
應永頃

栗田口隆光

繪師粟田口民部法眼隆光

土佐光國

前繪所預伊豆守藤原光國

畫師永春

畫師大史法眼永春畫

倭錦ニハ光顯長男トアリ土佐系圖ニハ光國同人トス倶ニ疑フベシ

僧慶昂

傳詳カナラズ

遣唐宗釈氏比丘慶昂頭陀行年卌七歲留畫於叢之

嘉暦貳年壬戌八月廿五日午時了

土佐光重

光重筆

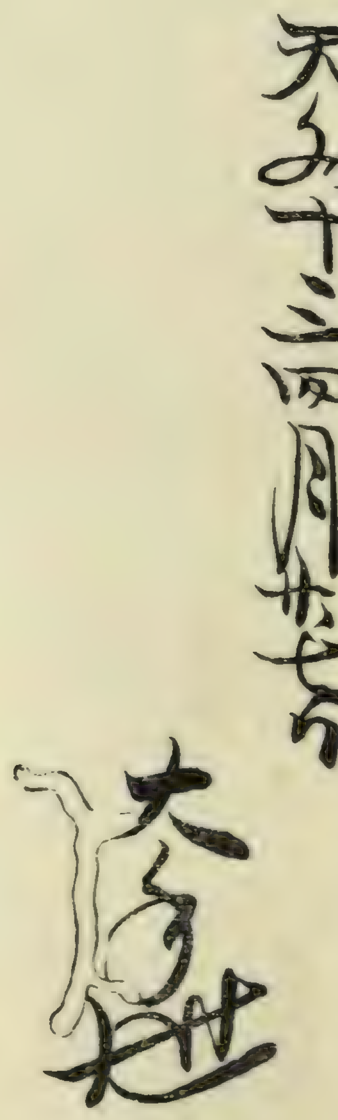
同　光信

永正十七暦　光信画之

同　光茂

大手丸

按ルニ光元ノ幼名カ



土佐光吉



同　光則



同　廣雅

光吉三男ト云土佐系圖ニハ載セズ



同 光起

土佐左近将監光起筆

土佐法眼常昭筆














同 光成

土佐將監光成筆

土佐左近衛將監任官

刑部權大輔藤原光成筆

















同 光祐



同　光芳

正五位下藤原光芳

盛服須土右仕系九京進

寛延二己巳三月十日　常覚

同　光淳

同　光時

画所預

土佐左近将監光時

同　光禄

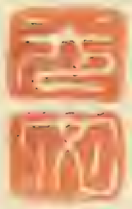
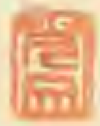
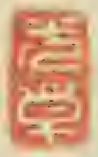
同光文

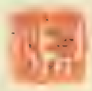
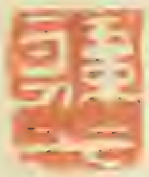
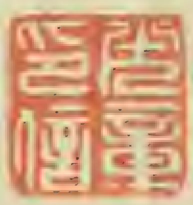
書畫研須從篆作老漢倚前洋藤原光文



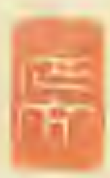


同光章





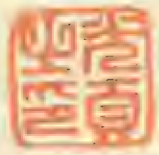


同 光貞



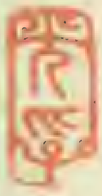
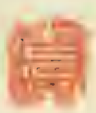
同　光孚







畫所預土佐守光孚


土佐　土佐守　光孚








同　光清

土佐守光清





土佐一徳

或作一得光吉弟
或云門人





土佐光繼

光吉門人



千枝桃翁

傳詳ナラズ

土佐道味





土佐祖斥殘嫡孫翁筆



住吉廣通

土佐内記筆

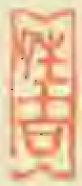
住吉法橋如慶筆

同　廣澄

法橋具慶筆

法眼具慶筆





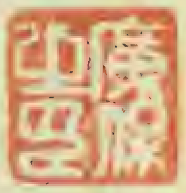








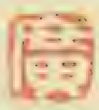

同　廣保



同　廣守

住吉廣守

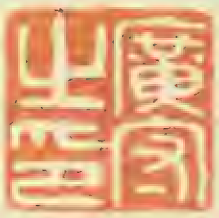
住吉廣守





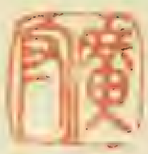
















同　廣行

住吉廣行筆





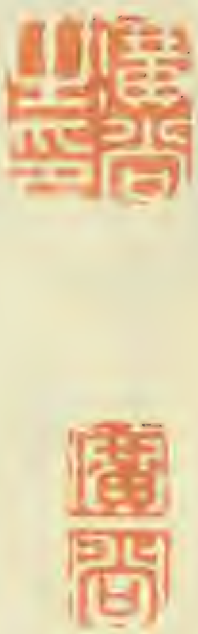
同　廣尚

廣尚画

住吉内記

廣尚









同 弘貫

住吉外記廣定画





同　廣賢

清江廣賢

生年十三歳壹遂發花三郎画

板谷廣當

行年六十六歳慶舟藤原廣當

同　廣長

桂意任吉廣長筆



同　廣隆



桂舟廣隆筆

法眼桂舟筆





同　弘延

雄舟弘延筆

粟田口直芳

行年六十七歳慶羽筆

同　直隆

享和辛酉初冬

直隆写

同　隆吉

粟田口藤原隆吉画

同　隆重

粟田口桂林隆重筆

田中訥言

訥言











土佐光貞門人名痴字虎頭大孝齋ト号ス法橋ニ叙ス近世本邦古画ノ風致ヲ得シハ此翁ヲ以テ魁トス京伏見街道ニ住シ后名古屋ニ移住ス文政六年三月廿一日死ス

浮田一蕙

畫隠生徒豊臣可為筆





土佐光孚門人名可為通稱内藏之助為牛又為佛子ト号ス安政六年十一月廿三日死ス

天保十二二季癸卯后九月　豊臣可為欽筆



岡田為恭

文久二年五月五日死年四十二

天保十二年歳次

辛丑十二月十六日

御子左藤原朝臣為恭謹書之 生年十九

冷泉三府藤原為恭拝写之

蔵人所衆式部少丞正六位下為恭書之

渡邊清

土佐光貞門人通称代助周溪ト号ス
万延二年五月七日死年八十四

同　廣清

清ノ男　通称廣治
弘化二年十月三日死年三十六

同　素清

清ノ二子

松原廣茂

住吉具慶門人
慶琢ト号ス

江土佐慶琢行年七十五歳書之

土佐重隆

土佐光成門人
享保頃

土佐末流重隆筆

山廣峰

住吉門人

山慶達画

白波瀬尚貞　又尚利廣尚門人

同　汶河　尚貞ノ男

汶江尚貞画

山名廣政　同門通称大助初行雅没前廣政ト改ム
安政四年十月十四日死年七十一

行年六十九藤行雅筆

七十一翁藤原行雅書

八幡貫稱　住吉弘定門人通称観助初定真
文久三年二月九日死

悠意斎定真筆

豊島将順
板橋貫雄ノ兄

豊嶋将順寫

同門通称孫三郎初名惟親又定時
玉松或ハ清容軒又菊廼舎ト号ス

板橋貫雄

豊嶋惟親寫 貫雄

板橋定時画

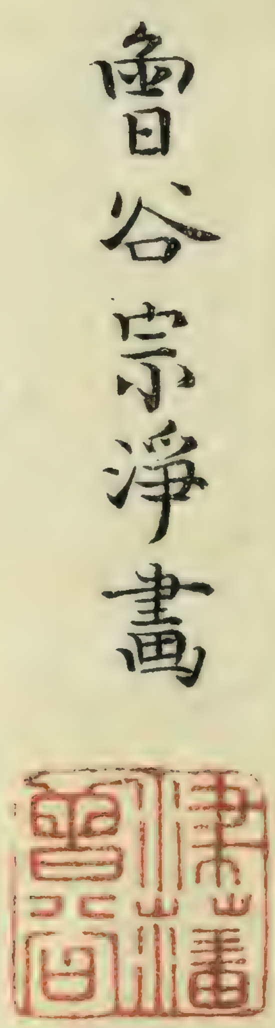
美術之下部類

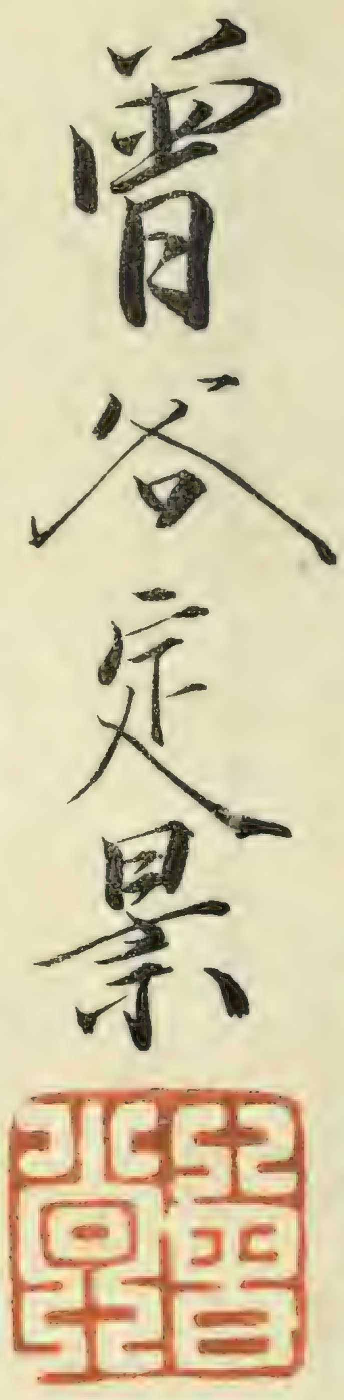
國周画

曾谷宗淨

曾谷定景
住吉弘定門人
通称彦四郎

守住貫魚
賞賜金印





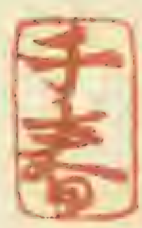
同門通称徳次郎阿波ニ住シ后大坂ニ移ル明治十七年繪画共進會ノ際金印ヲ賜フ明治二十五年二月二十六日死年八十四



高島千春

千春







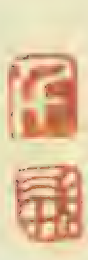
通称壽一郎浪花ノ人京師ニ住シ又江戸深川山本町ニ住ス
安政六年十一月十二日死ス年八十三

同　千秋



千春ノ男

同　千載

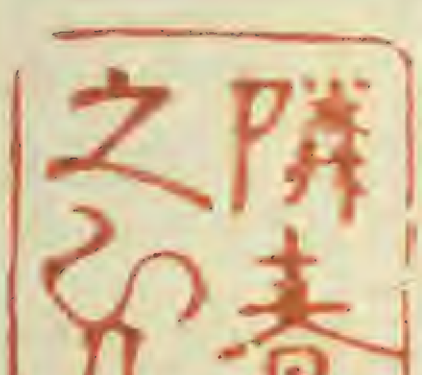


千春ノ二子通称金之助
于琴ト号ス

福島鄰春

高島千春門人通称左平吉人又兩迺屋ト号ス
淺草寺中ニ住ス

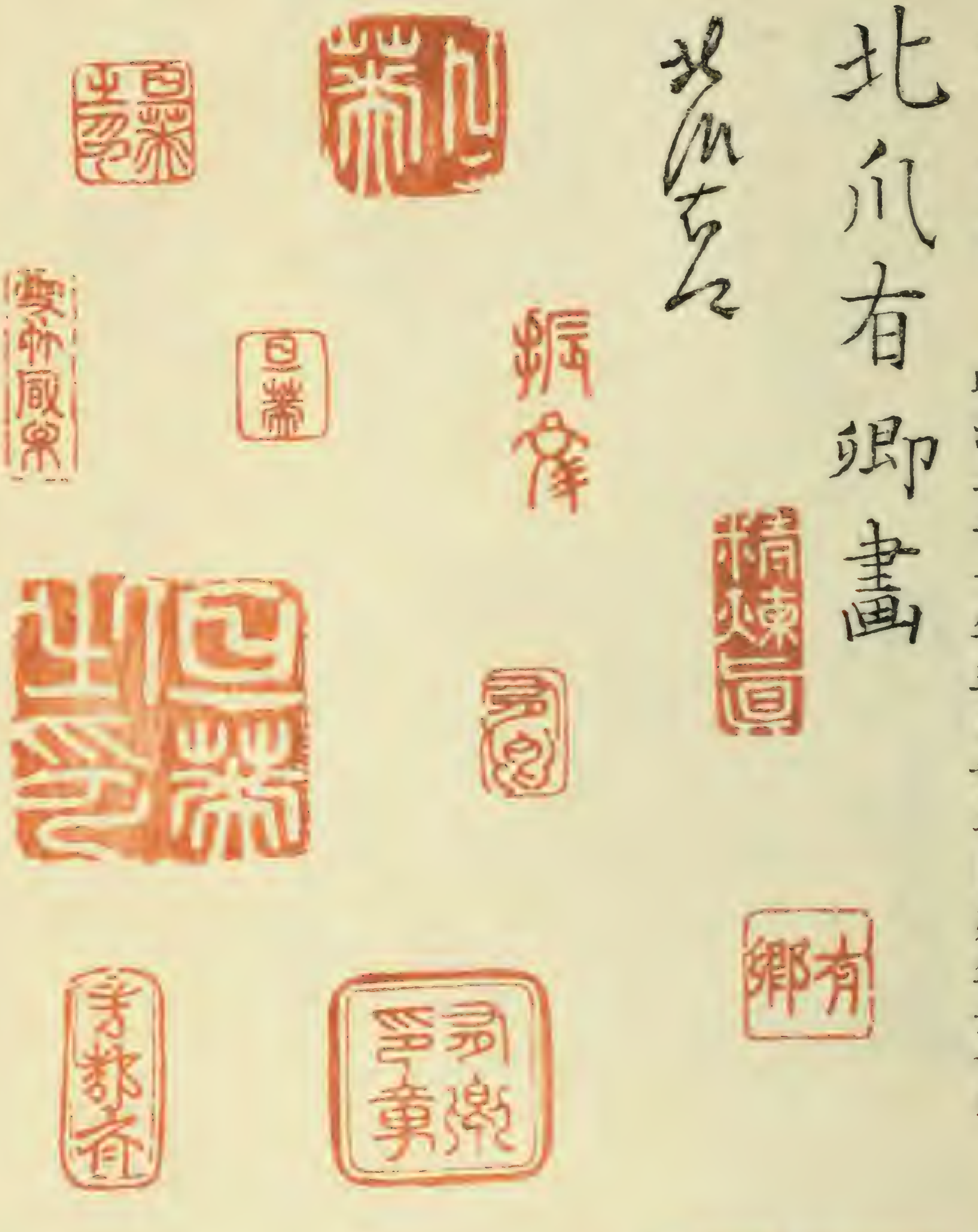
花所隣春作



北爪有卿

同門通称當一郎芳隣齋又且英ト号ス
明治二十一年五月廿二日死年六十九

北爪有卿畫



山澤尹詮

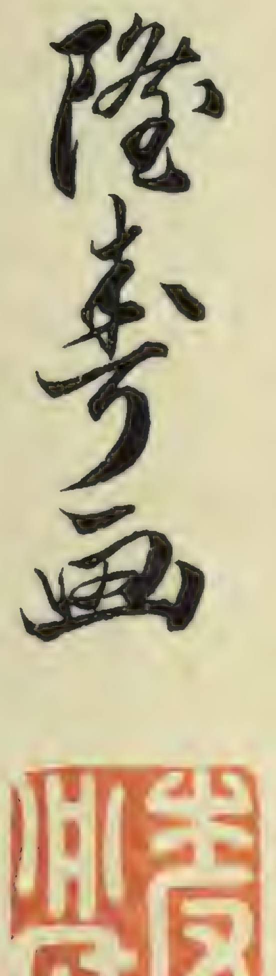
遠藤廣實門人通称與平東麟文守翁讀画菴ノ數号アリ
紀州和哥山ノ藩士明治十九年二月七日死年七十四





隆壽

粟田口門人
弘化頃



荒井千春

通称次左衛門田安家ノ藩士舞楽ノ画ヲ能ス
文政九年七月十一日死年九十四

行年九十一歳千春画

寺田秋嶠

渡邊清門人
名古屋ノ人

秋嶠

大滋

土佐門人
久留米藩

大滋

羽島春隆

始渡邊清門人后浮田一蕙ニ學ブ
尾張國津島村ノ人又同國熱田ニ住ス

畫隠依探幽図写之 春隆

藤原直

姓氏詳カナラス

寿永紀元小春吉旦
綠葉齋直

時田光稽

土佐光文門人通称金右衛門字ハ寛卿流翠又松蔭ト号ス
明治十年四月十四日死ス年四十二

土佐相覧

傳詳カナラス
天保頃

相覧

原　在中

在中
致遠

同　在正

原在正

同　在明

天保十一年庚子春日　原在明

原内舎人内匠大允平在明

原　在照

萬延庚申初冬
追写原在照

勝山琢舟

同　琢眼

春日画所法橋琢眼筆

琢眼

追加
○遠藤系圖

住吉廣守門人
廣古　本姓梅原氏后遠藤ト改ム　初廣起　鍋廬ト号ス
寛政年中伊豫松山松平家ノ画師ト為ル累世之ヲ襲フ
文政七年十一月十七日死年七十七

廣實　初古致又古行　通称伴助
文久二年五月廿六日死年七十九

廣宗　現存

賢武　現存

貫周　現存

廣賢　初廣文　幼名茂三郎
住吉弘貫ノ養子トナル

遠藤廣古



同 廣實

文化二稔乙丑葉月中浣日

寫術 遠藤廣實

寫所 藤原古致

代々此印ヲ用ユ

明治廿五年十一月一日印刷
同　年十一月二日出版

編輯者　東京下谷區中根岸町八十一番地　川崎千虎
編輯者　仝　千駄ヶ谷村原宿二百十番地　松尾四郎
發行者　仝　日本橋區通四丁目五番地　和田篤太郎
印刷者　仝　日本橋區通四丁目五番地　伊藤吉太郎
發行所　東京日本橋區通四丁目　春陽堂